

マドリッド日本人学校における現地校交流会の実践

前マドリッド日本人学校 教諭

広島県広島市立瀬野川中学校 教諭 東 帰 道 子

キーワード 現地校、英語、アイデンティティ

赴任校の概要（2025年4月現在）

マドリッド日本人学校

Colegio Japonés de Madrid

URL：http://www.cjmspan.com/

1 はじめに

日本の広島市で、約10年間、中学校の英語教育に携わってきた私にとって、マドリッド日本人学校で3年間の勤務ができたことは、多くの意味で貴重な経験と充実した日々を過ごすことができた。特に、小学校教育にも携われたことが、今後の自身の教員生活において、欠かすことのできない経験となった。また、英語教師として、現地校との交流会の企画、運営に携わった。英語をツールとして自国の紹介をすることで、英語を活用する最適な機会となったことや児童生徒に日本人としてのアイデンティティを育むことができた。ここに、赴任校での実践の概略を紹介したい。

2 マドリッド日本人学校の特徴

(1) 児童生徒に関して

小学1年生から中学3年生までの全児童生徒数が35名前後の小規模校であった。その内訳は、半数が駐在や派遣教員の子女、残りはスペイン国籍や外国籍など様々な家庭環境の児童生徒が混在していた。

同じ校舎の中で、小学部と中学部の生徒が共に学校生活を送るので、異年齢交流が盛んである。行事や委員会活動では、中学部の生徒が小学部の生徒をまとめたり、サポートしたりする機会が多く、リーダーとしての自覚を高めていける環境が整っている。

(2) 英会話授業について

児童生徒の中には、海外生活が長い子や、現地校等を経験した子もあり、英語やスペイン語に慣れ親しみ、現地の人と英語やスペイン語で会話することができていた。中学部の生徒は、英語実用技能検定の2級を取得している生徒も多くいた。その一方で、初めて海外で生活することになった児童生徒は、英語に対して不安を感じたり、苦手だと感じたりする子もあり、児童生徒の英語力には大きな差があった。

マドリッド日本人学校の英会話の授業は、外国人講師がレベル別に応じた授業を行っている。

小学1, 2年		小学3, 4年		小学5, 6年		中学部	
基礎	発展	基礎	発展	基礎	発展	基礎	発展
週3時間		週3時間		週2時間		週2時間	

少人数で英会話の授業ができるので、児童生徒はとても恵まれた環境で英語を学ぶことができています。

授業では、英語を得意とする子が苦手と感じている子のサポートを積極的に行っており、協同学習がよくできていた。外国人講師による All English の授業を通して、特に低学年の児童の吸収力には驚くものがあった。初めは、何を言っているのか分からず、英語の授業に対して否定的であった児童が、授業を重ねる度に、英語を聞くことにも慣れ、年度の終わりにはある程度の内容を理解するまでになっていた。

3 現地校交流会の実践

(1) 交流会の概要

毎年、小学部と中学部は、それぞれの時期に学校の近くにあるマリア校 (Colegio Maria Auxiliadora) の児童生徒と交流会を行っている。交流の内容は、自国の文化や学校の紹介を英語で行った。赴任2年目は、小学部と中学部共に年2回実施し、1回目はホストとなり、マリア校の生徒を招いて、交流会を運営した。2回目は、マリア校を訪問させてもらった。

(2) 小学部の実践

小学5、6年生がリーダーになり、縦割りグループを編成した。その際に配慮したことは、英語力である。各グループで、必ず英語でリードを取れる児童を割り当てた。

こちらがホストなので、会の司会進行は6年生が担当した。最初の〇×クイズでは、日本について紹介したいことを考え、クイズにした。例えば、“Japanese elementary school students go to school with their parents.”や“Long time ago, women couldn't climb Mt.Fuji.”である。スライドの中にイラストを入れ、マリア校の児童が理解しやすいように工夫を凝らした。縁日体験では、各グループで体験してもらうものの説明を英語に翻訳したり、マリア校の児童に教えられるように練習したりすることに力を入れて準備をした。当日は、縁日の雰囲気少しでも感じられるように、法被を着て会を盛り上げた。縁日では、日本の昔遊びにとっても興味を持ち、色々と質問してくれる児童もいた。お互いに身振り手振りで英語を用いてコミュニケーションをとる姿が見られた。



〇×クイズの様子

マドリッド 日本人学校	①日本文化の〇×クイズ ②縁日体験 ・けん玉 ・コマ回し ・福笑い ・折り紙 ・名前書き
マリア校	スペインの文化についての プレゼン

会の内容

1/19 (木)	グループで、クイズを考える①
1/26 (木)	クイズを考える②
1/31 (火)	自己紹介の練習
2/7 (火)	スライド作り①+縁日の練習
2/14 (火)	スライド作り②+縁日の練習
2/16 (木)	体育館でリハーサル

指導過程

10:00	Greeting Warming up	① greeting (by a student in Colegio Japonés) ② self- introduction in each group
10:10	Activity (presented by Colegio Japonés)	Group Activity (quizzes about Japanese culture etc)
10:30	Presentation (Presented by Colegio María)	Presentation about Spain etc
10:45	Photograph Greeting	① a commemorative photo (記念撮影) ② greeting (by a student in Colegio Japonés)

当日の流れ

マリア校の児童は、スライドを活用し、スペインの食べ物や有名な建築物などの紹介をしてくれた。日本人学校の児童はマリア校の児童が発する英語に刺激を受けた様子も見られた。

(3) マリア校訪問

2回目の交流会は、マリア校を訪問させてもらった。マリア校は、同施設に幼稚部から高等部まであるコンセルタード（半官半民型の学校）である。この度の交流会も、全て英語をツールとして行われた。グループ毎に、活動内容が異なり、児童は5つの活動をローテーションをして楽しんだ。活用内容は、①英語クイズ②国旗づくり③英単語ゲームなどである。最初は表情が固く緊張していた児童も活動に入ると、自然と笑顔が出てきた。また身振り手振りでコミュニケーションを取る姿に感動した。グループに



交流会の様子

よっては、「日本語では何というの?」と会話が弾み、マリア校の児童が必死に日本語を話そうとする姿も見られた。短い時間ではあったが、スペインの学校の中に入り、日本の学校とは違う教室の雰囲気やお菓子を食べながら休憩している児童を見たりする中で、児童は文化の違いにも触れるきっかけとなった。

(4) 成果と課題

英語で交流することに抵抗を感じていた児童もいたので、当初は心配していた。しかし英会話の授業で、英会話講師による発音指導や毎時間の練習を通して、自信をもって言えるようになった。当日は、つたないながらも、英語で日本文化を紹介したいという思いがあったからこそ、粘り強く身振り手振りでコミュニケーションを取ることができた。日々の英語の授業でやっていることが、この交流会で英語を使う実践の場として real situation となり、英語で発信することの大切さに気付いた児童も多くいた。また、日本文化を紹介するにあたり、日本のことについて調べたり、新たな発見も多くあったりしたようだ。改めて、日本文化の良さや魅力を再認識し、日本人として誇りを持って堂々と発表する姿に感銘した。児童のアイデンティティを養うきっかけとなったことは大きな成果である。

一方で、せっかく英語を使う場面だったにも関わらず、積極的に関わるのが難しい児童の割合がマリア校の児童より多かった。きちんとした英語で話さないといけないという意識があるのか、マリア校の児童の堂々と失敗を恐れず積極的に英語を話す姿に圧倒されたのかは分からないが、多くの日本人に見られる特性が顕著に表れたように感じる。普段の授業では英語が得意で英会話講師とも積極的に話している児童でさえ、この日は遠慮がちであった。交流会が年2回しかないので、交流会以外にも現地の人との交流の機会をもっと増やしていけたら、英語でコミュニケーションを取ることに抵抗感をなくしていけると感じた。また、間違いを恐れず、堂々と英語で自分の考えを発信できる児童生徒の育成について、今後も訓練が必要だと感じた。

4 おわりに

3年間、日本から離れた場所で生活をして、改めて日本という国の良さや魅力を再認識できた。日本で生活していた頃は、四季それぞれの文化や風習、行事に対してその背景や意義など深く考えていなかったことを思い知らされた。現地交流会の準備を通して、児童と一緒に調べたりする中で、多くの学びが自身の中でもあり、日本人で良かったと実感した。また海外の人は、日本文化や食に興味関心を持っている人も最近は多くいることが分かった。自分達の文化等を海外の人に英語で自身を持って発信できる児童生徒の育成に力を入れたいと思った。この3年間、マドリッド日本人学校やスペイン生活で学んだこと、感じたこと、経験したことを今後の教員生活に生かすと共に、スペインの魅力を多くの場で発信していきたい。最後に、スペインで出会った人との縁に感謝したい。